



AUTOPOLIS

2026 SUPER FORMULA Round 3

全日本スーパーフォーミュラ選手権 2026 第3戦 オートポリス
4月25日(土)～26日(日)

PRACTICE フリー走行

4月25日(土) 天候:晴れ/路面:ドライ

4月3日～5日にモビリティリゾートもてぎで行われた第1戦/第2戦から3週間。2026年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、舞台を大分県のオートポリスに移し第3戦を迎えた。第2戦で嬉しいチーム初表彰台を獲得した NTT docomo Business ROOKIE と福住仁嶺は、さらなる高みを目指すべくオートポリスに臨んだ。福岡在住の福住にとっては、九州でのレースとあり、ひときわ気合も入る一戦だ。

そんなオートポリスでのレースは1大会1レース制で、4月25日(土)はフリー走行と公式予選が行われた。

午前9時15分からスタートしたフリー走行は、気温15度/路面温度19度というコンディション。オートポリスは晴天に恵まれたものの、前日の午後から夜まで降り続いた雨が残り、路面はハーフウエットとなった。

走り出し後、すぐにスピン車両が発生し赤旗が出されるなど、コースは滑りやすい状況となっていたが、そんなコンディションのもと、福住は午後の公式予選に向けてアウトインを繰り返しながら、セットアップを進めていった。

開始から1時間が経とうかというタイミングでは、1コーナー立ち上がりでスピン車両があり2回目の赤旗が出されたが、その後は中断なく推移。10時35分のチェッカー後、グループをふたつに分けての専有走行が行われた。

ここで福住は、ただひとり1分26秒台となる1分26秒953を記録。A組の首位、総合でも2番手という好位置で終えた。「途中、赤旗中断もある中で順調にフリー走行を進めることができましたし、ニュータイヤでも悪くない位置で終えることができました」と福住は手ごたえを語った。

ただ、午後の公式予選までにコンディションが変わる可能性も高い。チームは予選を見越しセットアップの調整を行った。



QUALIFY

公式予選

4月25日(土) 天候:曇り/路面:ドライ



午後2時15分から始まった公式予選は、やや雲が増えるなか気温20度/路面温度23度というコンディションで始まった。今回、1大会1レース制ということもありノックアウト形式の予選はQ3まで設定され、ポールポジションは賞金100万円を獲得できるという要素も追加されていた。

そんな予選で、ひとつでも上位を目指すべくQ1のA組に出走した福住は、1分27秒722というタイムを記録するが、順位は6番手。ギリギリでのQ1突破となった。

午前の好感触からほとんどセットアップの変更を行わなかったが、インターバルの

間に他カテゴリーの車両が走行した影響があったかコンディションの変化が大きく、これがQ2にも悪影響を及ぼしてしまった。1分26秒827とタイムを伸ばすものの、結果は10番手。Q3進出はならず予選を終えることになった。

「あまりタイムを伸ばすことができませんでした。セクター3でのロスが特に大きかったです」と福住は悔しがったが、一方で「オートポリスでの改善ポイントが今までよりも見えてきたので、僕たちにとっては実りのある一日になりました」と福住は収穫もあったと予選を振り返った。

RACE

決勝レース

4月26日(日) 天候:雨/路面:ウエット ※悪天候のため中止



公式予選から一夜明け、迎えた4月26日(日)の決勝日。オートポリスは早朝から雨が降った。スーパーフォーミュラのフリー走行が行われる前に実施されたサポートレースの前には雨は止み、午前9時40分からのフリー走行はウエットタイヤは必要ではあるものの、かなりコース上の水量が減るなかでスタートした。

ウエットコンディションでのセットアップを進めるべく、NTT docomo Business ROOKIEと福住はフリー走行を使ってセットアップの確認を進めていった。途中、6

周目に1分38秒791というベストタイムを記録したが、その後開始から20分ほどというタイミングで、#3 ルーク・ブラウニングがクラッシュ。そのままフリー走行は赤旗のまま終了となってしまった。

その後もオートポリスは雨はほとんど降っていないが、午後2時30分からの決勝レースを前にどんどんと雨脚が強くなってきてしまった。ウォームアップ、さらにスタート進行の間に天候は悪くなる一方で、午後2時30分の開始時刻にはスタートディレイが発表された。

午後2時48分にはセーフティカー先導で隊列が動き出したものの、雨に加え視界も悪く、1周にも満たずそのまま赤旗中断。レースは午後3時20分、悪天候のため中止が決定してしまっ

た。NTT docomo Business ROOKIEと福住にとっては、ファンの前でレースを見せられなかったことに加え、少しでもウエットでのマイレージを重ねたかった中での中止は残念な決定となってしまった。代替レースについては、今後サーキットやオーガナイザー等との協議で決定されることになる。

VOICE ドライバー／監督コメント



Nirei FUKUZUMI DRIVER

福住仁嶺

「フリー走行から公式予選に向けた流れのなかでうまくパフォーマンスを上げることができず、悔しい予選となってしまいました。決勝日はウエットコンディションになり、フリー走行では気づくところもありましたが、僕はこのチームに移籍してまだウエットでの経験があまり多くないので、できればレースでマイレージを重ねてデータを取りたかったです。皆さんの前で走り、データをしっかり残すことができなかったのは本当に残念なところです。次大会の鈴鹿はテストで好印象があったものの、同じようにはいかないと思います。チームとエンジニアとしっかり分析し、上位で走れるように準備していきたいと思います」



Hiroaki ISHIURA GM / DIRECTOR

石浦宏明

「フリー走行までは比較的順調に進んでいるように見えていましたが、オートポリスというコースですごく重要なセクター3でやや他車に対し差があったので、その点は不安に感じていました。結果的に予選でもセクター3で詰め切れなかったのがQ3に進出できなかった理由になったと思います。できれば決勝レースでもドライコンディションのもとで対策が有効だったのかを見たかったです。残念ながら悪天候で走ることができなかったのも、その課題を次の鈴鹿で引き続き取り組んでいきたいと思っています。テストでも好調だったコースなので、2レースとも表彰台を目指して頑張っていきたいと思っています」

PHOTO GALLERY フォトギャラリー



Our activities are supported by all partners

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています



DENSO





いつもさいしよ、アタラシイコト。
VITEC
Creative Power

NSK







vūteq









ThreeBond